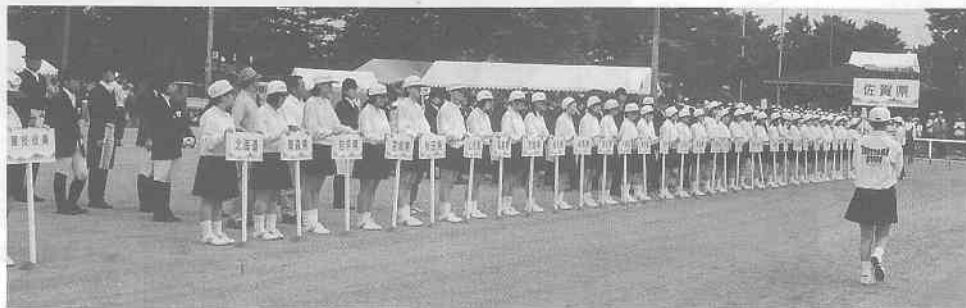


第55回国民体育大会馬術競技リハーサル大会

20世紀最後を飾る富山国体（平成12年10月14～19日）を控え、5月27～28日の両日、リハーサル大会が開催された。場所は「馬がかける 白球がまう 立山の里」をスローガンに馬術競技とソフトボール競技の開催地である立山町・常願寺川公園特設馬術競技場。16府県・選手数126名、馬数70頭の参加により、競技が展開された。

報告／谷川由尚（大会総務委員）



立山連峰を望む緑の自然に囲まれた環境にある「常願寺川公園特設馬術競技場」は富山市内からも比較的近く、北陸自動車道、立山IC から約5分と立地条件の良い場所に位置している。昭和27年まで存在した利田競馬場を馬道・馬事公苑を残す都市公園として整備したものが、経年変化により路盤のクッション性に支障をきたしていたことや、「2000年とやま国体」馬術競技がこの公園で開催されることとなったことから、馬場を改修。新たに室内馬場、管理棟、厩舎を新築し、富山県の馬術競技の拠点施設として整備したものである。



▲競技場風景

〈施設概要〉

施設名	規模	内容
馬場	面積／約12,000m ²	観覧席／4カ所 (約340席分)
室内馬場	建築面積／約940m ² 木造平屋建	20×40mの馬場 最高高さ／10.43m
管理棟	延床面積／約150m ² 鉄骨造2階建	外壁／杉板張 審判室、更衣室、器具庫等
厩舎	建築面積／約570m ² 鉄骨平屋建	外壁／杉板張 40馬房、馬洗場6カ所
備品関係	障害物25基 トラクター1台他	管理用備品

競技場は河川敷を利用した関係上、幅員が狭く縦に長い、過去に類を見ない施設で、選手も戸惑いを感じながらも2日間、9種目の熱戦を繰り広げた。

参加地区は、東北・中部・東海・近畿・四国と広範囲であり、地元富山を含め16府県、総参加選手数126名、総参加馬数70頭であった。

第1日目、午前中は暑いほどの天候であったのが午後には少年ダービー開始直前からあいにくの降雨。さらに第2日目は時々雨のうえ、強風が吹き荒れるという悪天候のなかでの競技となった。

障害競技においては各選手、競技馬ともに全日本、国体で活躍しているベテラン勢が数多く出場し、競技内容も充実、盛り上がりを見せた。特に第2日目の最終競技、成年女子トッブスコアでは4番目に出場した地元富山の水町友香選手が高得点を獲得。後続の選手たちがトッブ争いを挑んだが、逆転することができず、彼女の優勝が決まった。その瞬間、観客席からは大きな拍手が盛んに送られていた。



▲関係者が見守るなか、競技は次々と展開されていった

▶ダービー競技の会場。



▶第6競技/少年ダービー競技の表彰式。



一方、馬場馬術の参加者が少なかったことはリハーサル大会とはいえ、寂しい限りであり残念であったが、競技は無事終了した。

▶成年男子セントジョージ賞典優勝、牧野孝喜選手（富山県）と馬弓。



▲成年女子自由演技セントジョージ賞典の表彰式。左より、2位稲田朝代選手、優勝牧野裕子選手、3位千葉いずみ選手。

リハーサル大会を開催する意義は成績を競うことも重要であるが、施設・運営面が本大会へ向けて用意周到に準備され、かつまた地元各係員に競技を経験させ、本大会が順調に進められるようにすることが重要な目的である。

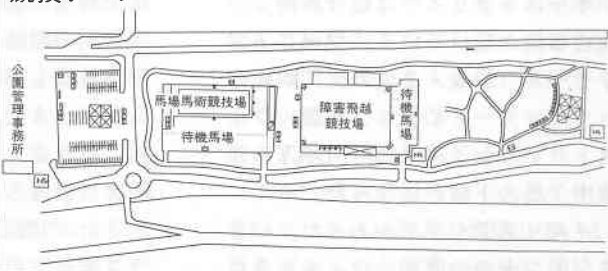
富山国体の会場は特異な形状という事情から、ある程度やむを得ないというものの、選手、役員をはじめ、関係者には相当な不便を与えられと考えられる。馬場の配置等のハード面の変更については難題も多く、大きな変更は無理であろうが、ソフト面で改善できる個所は少しでも改善していく必要がある。さらに選手や競技馬が日ごろの訓練の成果を充分発揮できるよう配慮し、本大会の成功に結びつくよう祈願いたします。競技終了後の反省会においても各県選手から活発な意見や要望事項が出されたが、日馬連からも問題点、改善個所をいくつか指摘したので、本大会に備えていただきたい。



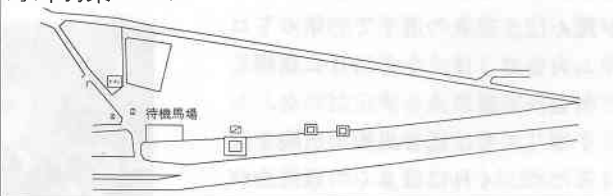
▲徳田耕大会委員長。



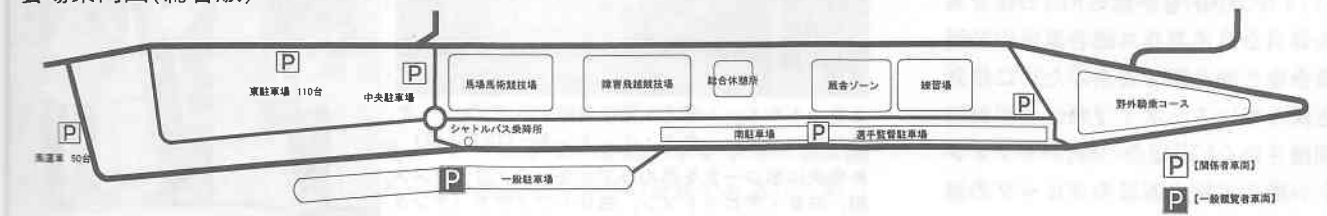
競技ゾーン



野外騎乗コース



会場案内図(総合版)



(成績は86ページをご覧ください。)